

2018(平成30)年度  
厚木秦野道路建設事業に伴う発掘調査

かみなりまついせき  
**神成松遺跡第8地点**

主催 公益財団法人かながわ考古学財団  
共催 伊勢原市教育委員会

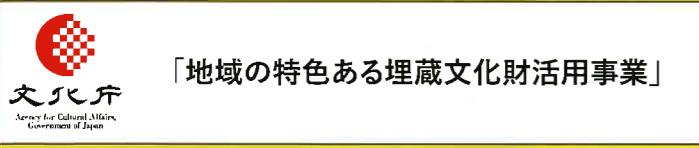
# 比べてみよう 縄文時代中期・後期の住居跡!

**縄文中期・後期の住居跡発見!!**

伊勢原市上粕屋に所在する神成松遺跡第8地点は、厚木秦野道路建設事業に伴い発掘調査を実施しております。

当遺跡では、過去に、産業能率大学建設時の調査等で、縄文時代中期・後期の住居跡が発見されています。

今回の調査でもこの時期の遺構が発見され、厚木秦野道路の事業地にも、集落が広く存在することが判明しました。伊勢原市内の縄文時代の集落の状況がわかる資料として見学していただけますと幸いです。



J3号住居跡床面検出状況

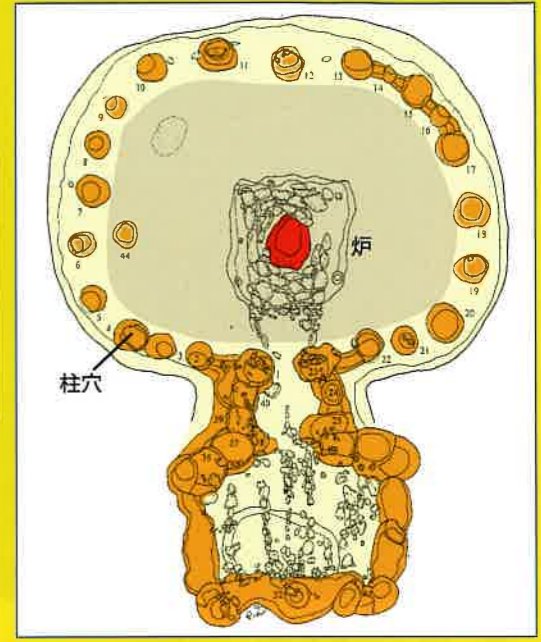
## 縄文時代後期前葉の「柄鏡形敷石住居跡」

扁平な礫を床面に敷き詰めた、住居跡です。縄文時代中期後葉から出現します。左の写真の住居跡は「堀之内式」という土器が伴うことから、縄文時代後期前葉の住居跡と考えられます。

この時期の住居跡は、入口にあたる部分が張り出し、住居の主体部周辺から出入口にかけて柱穴がめぐります。写真の住居跡は石が出土した状況で柱穴を検出しておりませんが、右図の「小丸遺跡」ように石の周囲をめぐり屋根を支えていたのでしょう。



「堀之内式」土器出土状況 (J3号住居跡覆土)



横浜市の「堀之内式」の柄鏡形敷石住居跡例。この遺跡の例は、柄部から炉にかけてのみ石を敷いている。横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター1999『小丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25 ▶



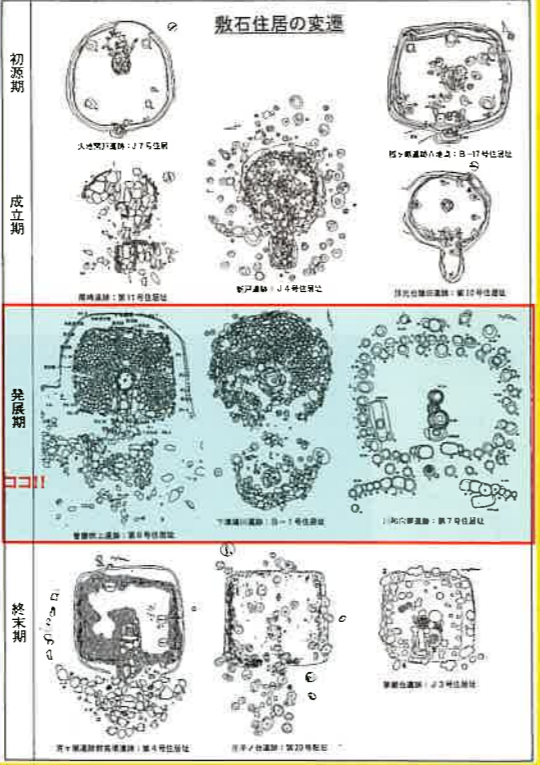
J3号住居跡石囲炉礫廃棄状況 J3号住居跡石囲炉燃焼面検出状況

### 注目ポイント

左写真は、柄鏡形敷石住居内に設置された石囲炉です。火をおこし、煮炊きや暖をとる等の用途として利用されました。この炉跡は使用頻度が高いか、高温で火を起こしたようで、炉を囲う礫が非常によく焼けて脆くなっています。下面は土が焼けて赤くなっていました。この住居跡を廃棄する際に、炉の片側を意図的に破壊し、石が詰められていました。



▲縄文時代後期の柄鏡形敷石住居跡復元図 伊野正人2010『21世紀から見た伊勢原の歴史』(公財)かながわ考古学財団



神奈川県立埋蔵文化財センター1996『謎の敷石住居』展示図録

## 縄文時代中期中葉の「竪穴住居跡」

地面に素掘りの竪穴を掘り、穴の縁に柱を数本建て、屋根を支えたと考えられる、半地下式の住居跡です。写真の住居跡は、「勝坂式」の土器が伴うことから、縄文時代中期中葉の時期であると考えられます。不整形の円形の掘込みを持ち、柱穴が複数あり、立替えをしている様です。そして、床面で直に火を焚いた、「地床炉」が確認されています。

また、今年度の調査区では、これより新しい、中期後葉の住居跡も発見されております(中期後葉住居跡復元図参照)。  
※残念ながら現時点で見つかった住居跡は調査区外まで続いてしまっているため、全容をお見せできるものは見つかっておりません。

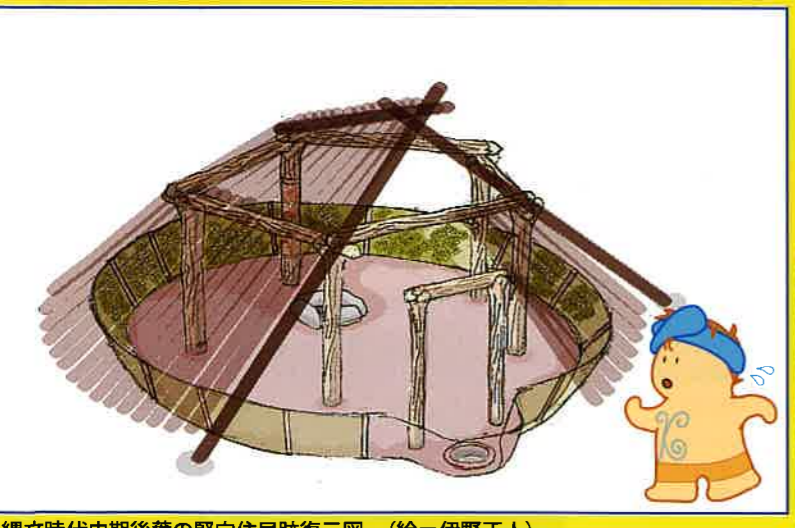


J10号住居跡石囲い炉検出状況 J5号住居跡「勝坂式土器」出土状況

中期中葉の住居跡は、まだ出入口に張り出しがつかないね!



J5号住居跡遺物出土状況(中期中葉) ※調査中の為、柱穴を全て掘っていません。



▲縄文時代中期後葉の竪穴住居跡復元図 (絵=伊野正人)

おおよその年代

3500年前 1500年前 2500年前 1700年前 1300年前 800年前 400年前 150年前

旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世

※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。  
※この内容は調査段階のものであり、今後の調査成果や出土品整理などにより評価を変える場合があります。

2018(平成30)年度  
厚木秦野道路建設に伴う発掘調査

**神成松遺跡第8地点遺跡見学会資料**

2018年12月15日  
主催 (公財)かながわ考古学財団  
共催 伊勢原市教育委員会  
〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1  
Tel045-252-8689 <http://www.kaf.or.jp>

# 神成松遺跡第8地点3区縄文時代みどころ



## ① 縄文時代中期エリア

縄文時代中期中葉～中期後葉の住居跡・集石・配石が発見されました。



J5号住居跡遺物出土状況



J6号住居跡遺物出土状況

J7号住居跡は、住居跡の建て替えが顕著にわかる事例です。壁をとりつけるための浅く掘りくぼんだ「周溝」が3周しており、少なくとも3回の建て替えを行っていることが確認できます。



J7号住居跡遺物出土状況



J7号住居跡水煙土器出土状況

中期後葉の「水煙土器」の一部を発見しました。日用品として使用したとは考えにくいものです。周辺の出土例が少なく貴重な例です。



J9号住居跡検出状況

中期の住居跡の特徴として、住居跡の廃絶後、掘り込みの中に、土器などを捨てていた様です。中期はこのような例が顕著にみられます。



J2集石検出状況

石を集めて高温に熱し、蒸し料理を行った調理施設と考えられます。時期は中期中葉と考えられます。



J3配石検出状況

石器と礫が一箇所に集積されています。

## ① 縄文時代後期 エリア

縄文時代後期前葉の住居跡・遺物集中が発見されました。



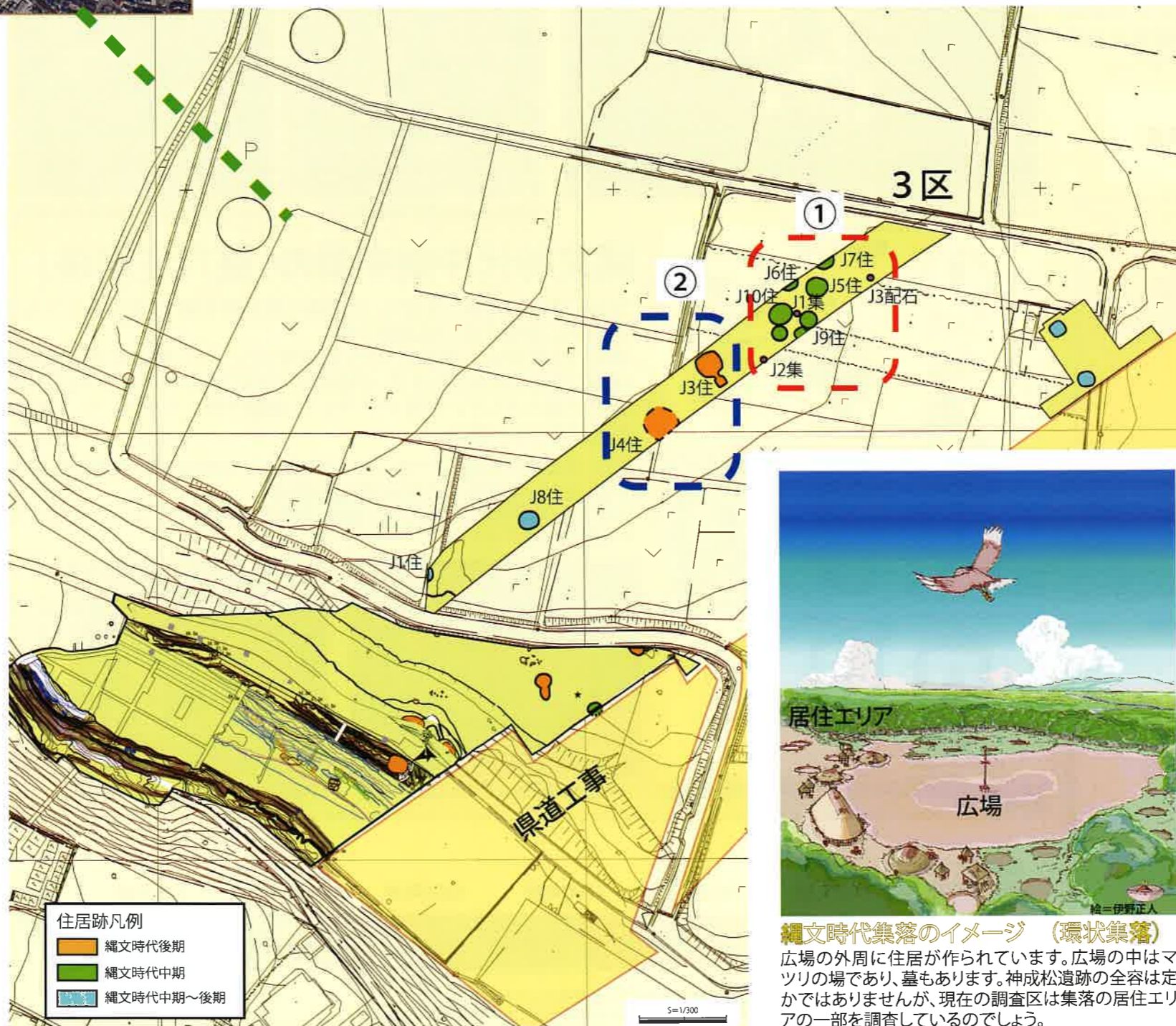
J4住居跡検出状況  
床面の石が引き抜かれている敷石住居跡です。

J3号住居跡 ▼ 住居跡廃絶後…



J2遺物集中…J3号住居跡掘削前の状況

柄鏡形敷石住居跡からやはずれた南西側は、大量の遺物を含む層で、低く盛り上がっていました。住居跡として機能を停止後、遺物を捨て続け、結果として低い盛土状になったものと考えられます。



縄文時代集落のイメージ (環状集落)

広場の外周に住居が作られています。広場の中はマツリの場であり、墓もあります。神成松遺跡の全容は定かではありませんが、現在の調査区は集落の居住エリアの一部を調査しているのでしょう。